



平小の断極なる郷土偉人祭舉行に誨ふ

先づ最初に、其の當務者(平町小學校)に、次の二大項本條の一、次條の二を示して質問しなければならぬ。

磐新歌壇

小山田 滋選 秋 小 路 白 蛾 日暮の暮れぬ氣の濁りこの頃は郊外に住まんと染々思ふ

途上吟

福島市 森 星 油断街路樹に居てしきり鳴く 根子のとんぼ釣る居る日の盛り

入山懸賞當選盆踊詞

1 梅の八仙みどりの香葉、さくら花吹く露の山 相 樂 源 吉
2 坊も生れた入山も繁、皆んなまめたと書く便 蛇 子 長 市
3 入山世帯と三日月様は、一夜よりくるなる 構 井 登 吉
辛棒する木をこの入山に、植えりや黄金の寶を 三 浦 正
私の想ひを今吹く風で、主の切端に送りたい 遠 藤 泰 雄
岩の入山節の湯本、浮かれ雛子の笛太鼓 高 橋 徳 雄
月も入山節に更けて、憎くや告げ行く明郎 高 橋 徳 雄
親の代から入山暮らし、踊る手振も親譲り 志 賀 麒 一郎
4 拍子揃った音頭の聲に、山は平和の盆踊り 川 上 清 雄

拈華微笑

つべきのみ 家元審判の下に 河童の制覇戦。 出仙の両校庭球 水ト競技豪華版 選手依然好調、 近キボト石 牽牛娘女年に一 度の逢ふ瀬。 ナンカテ新田町 出馬もあらんか

家の照りやん

雲 龍 家の照りやんよ照りやん 家の照りやんよ照りやん 家の照りやんよ照りやん 家の照りやんよ照りやん

社(會)の今日

木下 利玄 遠方の銀治屋かかうつ 音すみて、秋やうご 八月のすゝ 初沙や岩に灯ともす濱 魚 里

丸山秀雄

丸山秀雄 花の臺の山香葉の月も、入山ありやこそなほは 一度来て呉れ吾が入山に、機械動かす石が出る 松 本 竹 雄 國を出るときやモンベに草鞋、今や入山で若 宇 川 清 紳士は潮に住み島木にとまる、私しや入山の里に 住む 吹けばバット散る粉炭さへも、汽車を走らす意 気がある 炭のお金を爲替にかへて、送りやうし雨親に 川 上 清 雄 揃った浴衣に入山マーク、夏の月夜を輪に踊る 松 本 武 雄 吉 田 徳 重 踊り踊るときやしなよ丸く、石炭積むときや 志 賀 麒 一郎 丸函に 可愛いまさんと二人の切羽、汗も涙も苦にな らぬ 石 山 榮

入山懸賞當選盆踊詞

梅大鼓のドンと鳴る下に、入山自慢の盆踊り。 湯本名物自慢ぢやないが、黒いダイヤ湯の煙 丹 野 義 勇 俺いら親から入山育ち、波り坑夫に負けやせぬ 石 山 榮 断層切る手に力がこもる、明日は飛出す黒ダイヤ 蛇 子 長 市 共同一致で笑ゆる入山、丸い踊りの輪で知れる 門 脇 昌 平 笑つちや嫌だよこのボ、服は、貯めたお金の生 みの親 宮 本 進 奈たら寄らんせ小名濱踊り、湯本入山来て歸れ 鈴木 倉 治 牙けた音頭と七色煙火、町は火の海人の波 遠 藤 泰 雄 堅坑三千尺暗路の懸が、今や明るい新世帯 志 賀 麒 一郎 主は満洲で羨しや入山で、心かよはず盆の月 人

剣火無情

津屋 義人作 城内の牢獄(二) 『到頭難つたぞ』 『オ、圓を作つてあるのだ 民に頼るは當然だ』 『何者であらうな』 『多分波山からの問謀、 やら若し美しいさうな...』 『何者であらうな』 『おんなら幽閉された人質 知られるから、意外な者を 遣はしたかも知れぬ』 『オ、さうだ、山には佐賀 藩の士で美男秋岡丹三郎、 へ来るまで他の壘を踏ま ねに江戸の旗本で梅津要 ばなるまい。然るに入口の

翠光齋

主 船生四郎 平町十五丁目二六 大町通り

刀劍研磨 白鞘調製 刀劍把巻 刀劍買入

研 師 翠光齋 主 船生四郎 平町十五丁目二六 大町通り



時代ハ有價證券デス

手輕ナ理想的六分五厘配當附當社ノ 御利用ヲ乞フ。 簡單ニ金融モ致シマス。 各地出張所代理店募集。 高級社員招聘

金給年金

低利立替 軍人官吏其ノ他一 般(巡査)モ速力ニ 御希望の方は表記ニ御 御談を乞。 平町六丁目百〇番 鈴木 龜 雄

恩給年金

低利立替 軍人官吏其ノ他一 般(巡査)モ速力ニ 御希望の方は表記ニ御 御談を乞。 平町六丁目百〇番 鈴木 龜 雄

帝都證券株式平支部

東京モリス社トハ全然別會社ト關係有リマ セン誤解ノ無イ様願ヒマス。

天川登

各位

田卷造酒之助

拜啓時下殘暑の砌々々御清祥奉賀 上候 亡息弘恕儀新盆に相當り候 處時節御提灯其他御物等御惠賜の儀 乍勝手御辭退申上候 敬具 昭和八年七月 平町五丁目 植村 喜一

金光堂時計店

故末吉儀新盆に相當り候得 共持灯供物其他金品一切御贈與の儀 固く御辭退申上候 敬具 昭和八年八月 五丁目 金光堂時計店 布施チヨ子

渡部外科

小兒科 外科 醫學博士 渡部 義夫 平町田町大通り(電話二七七) (入院應需)

初任固定給月三十圓

廿五才以上 男女を問はず 履歴書携帶左記へ、面會毎日午後 平町田町一七 仁壽生命平駐在 吉田 仁三郎 電話三五二番

波路を越えて

波路を越えて、松平 晃 會田時計店 平町四丁目 電話三六三

